

『群書類従』を探る：江戸のオープン・アーカイブからジャパン・ナレッジへ」(Web 版群書類従セミナー)

国際日本文化研究センター・江上敏哲

2014/10/3(金)東京、10/7(火)京都

(概要)

『国史大辞典』(抄)「群書類従」

「江戸時代後期に塙保己一が編纂し刊行した叢書。収めるところ千二百七十六種、六百六十五冊。文政二年(一八一九)に版木ができた。神祇・帝王・補任・系譜・伝・官職・律令・公事・装束・文筆・消息・和歌・連歌・物語・日記・紀行・管絃・蹴鞠・鷹・遊戯・飲食・合戦・武家・釈家・雑の二十五部に分類されている。『続群書類従』も同様の分類で、二千二百二十八種、千八百八十五冊である。」「この叢書の刊行によって稀観書の散佚が防がれ、諸書が容易に見られるようになったことは大きな功績である。所収書の底本の不十分さ、底本の本文と対校本の本文とのすり替えによる混乱、大部で重要な古典の収載のないこと、搜索不足からくる洩れなど、無欠点とはいえないが、今日でもなお益するところ多い。」「その版木は総数一万七千二百四十四枚で、東京都渋谷区の温故学会に保存されている(重要文化財)。版下は、多くの協力者によって書かれているが、屋代弘賢・町田清興らの能筆者も参加している。版木の彫刻料は、総額五千六百十九両三步を要したといわれ、この刊行は巨額の費用の伴う事業であったが、幕府の援助、鴻池らの助力を得るなど、この方面の努力も容易でなかった。」

(年譜)

- ・1746、塙保己一(荻野寅之助)生まれる
- ・1752、7歳で失明
- ・1760、江戸で、検校・雨富須賀一に入門
- ・1761、萩原宗固・川島貴林らに歌学や漢学等を学ぶ
- ・1769、賀茂真淵に師事し国学を学ぶ
- ・1769、賀茂真淵没
- ・1775、勾当に昇進。名を「塙保己一」とする
- ・1779、北野天満宮に般若心経百万巻読誦の誓いをたてる(『群書類従』出版を祈願)
- ・1782、結婚(長女誕生後、離縁、再婚)
- ・1783、検校に昇進
- ・1786、『今物語』刊行
- ・1786、『群書類従』出版を開始
- ・1788、『花咲松』刊行
- ・1789、彰考館で『大日本史』の校正に参加する
- ・1792、江戸大火
- ・1793、和学講談所の設立を幕府に申請し、認可される
- ・1793、和学講談所の竣工翌日から講談会が開始される
- ・1795、『続群書類従』の企画編集に着手
- ・1795、和学講談所が林大学頭の支配下におかれる
- ・1797、板木の倉庫用地を幕府から借りる
- ・1799、『日本後紀』の校訂・刊行
- ・1799、公家の家記・日記類の書写事業を開始
- ・1819、正編全冊の刊行を終える(保己一 74歳)
- ・1821、塙保己一逝去
- ・1822、四男・忠宝(ただとみ)が塙家を継ぐ
- ・1862、忠宝暗殺、孫・忠韶(ただつぐ)が継ぐ
- ・1868、和学講談所廃止
- ・1883、続編・未完成の写本が宮内庁に献上
- ・1909、温故学会設立
- ・1922、皇室より『群書類従』ケンブリッジ大学に寄贈される
- ・1937、ヘレン・ケラーが温故学会を訪問
- ・1957、『群書類従』の版木が重要文化財に指定される

(史料抜粋)

- ・「御改正以後諸道繁榮仕候処、和学而已未行不申候、(中略)歴史・律令之類者差当りたより所無御座候、依之会所定置、同志之人々申合相励」(塙保己一、和学講談所設立の願書、1793)
- ・「近来文華年々に開候処、本朝之書、未一部之叢書に組立、開板仕候儀無御座候故、小冊子之類、追々紛失も可仕哉と歎か敷奉存候」(塙保己一、幕府への借地願い書、1797)
- ・「異朝には漢魏叢書などよりはじめて、さる叢書どもも聞えたり、中国(みに)にはいまだ其ためしなし、さらばここにもかしこにならひて、かしこにちりほひある一巻二巻の書をとり集めて、かたぎにゑりおきなば、国学する人の能たすけなるべしと思ひとりて」(中山信名『温故堂塙先生伝』)
- ・「右之書次第にかかはらず、望の者多く有之候巻、去去月より一二冊づつ開版仕候、いづれの部にても御好に任せ候間、御懇望の方は、当六月廿五日より十月六日迄に、土手四番町塙検校宅え可被仰遣候、猥に開版不然ものも御座候に付、摺たて二百部を限り候間、其後は御断申候、料は今物語の通の紙仕立にて、紙十枚六分二リン、仕立四分五リンに御座候」(大田南畝『一話一言』)

(JapanKnowledge での検索例)

(例)『群書類従』に黒田官兵衛関連の文献は？

→『群書類従』で「黒田官兵衛」を検索する

→黒田官兵衛の”ほかの名前”は？

→『国史大辞典』で「黒田官兵衛」を見出し検索する

→ヒットなし

→複数の参考図書で「黒田官兵衛」を見出し検索する

→『日本人名大辞典』などで「黒田官兵衛→黒田孝高(くろだよしたか)」がヒット

→『国史大辞典』で「黒田孝高」を見出し検索する

→「[参考文献]『大日本史料』一ノ二ノ二 慶長九年三月二十日条、『寛政重修諸家譜』四二五、貝原篤信『黒田家譜』(『益軒全集』五)、金子堅太郎『黒田如水伝』

→『国史大辞典』で「黒田孝高」や「如水」で「群書類従」を全文検索する

→『神屋宗湛日記』に記述あり？(『群書類従』では『神屋宗湛筆記』で収録)

『玄与日記』に黒田如水登場？(『群書類従』日記部所収)

→『群書類従』で本文を確認

→わからない単語・人名・地名を調べる・・・(同じ JapanKnowledge 上で)

→外部サイトへ、次への展開へ・・・(同じブラウザ上で)

(参考文献)

・太田善麿、『塙保己一』。吉川弘文館、1966。(人物叢書)。

・塙保己一史料館、公益社団法人温故学会。 <http://www.onkogakkai.com/>

・川瀬一馬、「塙檢校と群書類従」。『塙保己一記念論文集』。温故学会、1971。

・小林健三、「類聚国史と群書類従：和学の成立をめぐって」。『塙保己一記念論文集』。温故学会、1971。

・坂本太郎、「和学講談所における編集出版事業」。『古典と歴史』。吉川弘文館、1972。

・椋内愛子、「江戸時代の随筆に見る塙保己一」。『温故叢誌』。1998, 52。

・椋内愛子、「江戸時代の随筆にみる塙保己一・群書類従」。『文献探索』。1998, 1997。

・椋内愛子、「江戸時代の随筆にみる塙保己一 その2」。『文献探索』。1999, 1998。

・椋内愛子、「江戸時代の随筆にみる塙保己一 3」。『文献探索』。2000, 1999。

・嵐義人、「記念講演 塙檢校における学問の意義」。『温故叢誌』。1999, 53。

・斎藤幸一、「『群書類従』版木による摺立てについて」。『温故叢誌』。2000, 54。

・谷口守、比良 輝夫、「明治期の平仮名表記に関する一考察(1)とくに『群書類従』(再翻刻)をめぐって」。『北海道教育大学紀要。教育科学編』。2002, 53(1)。

・池田恭子、「塙保己一と和学講談所に関する一考察—和学講談所設立の背景と塙保己一の意識・構想を中心に」。『温故叢誌』。2005, 59。

・斎藤幸一、「『群書類従』版木の歴史—版木倉庫の建設・版木の献納・摺りたて再開」。『温故叢誌』。2006, 60。

・小澤弘、「江戸の出版文化と塙保己一」。『温故叢誌』。2008, 62。

・齊藤幸一、「和学講談所の蔵書数と管理」。『温故叢誌』。2008, 62。

・熊田淳美、『三大編纂物、群書類従、古事類苑、国書総目録の出版文化史』。勉誠出版、2009。

・小川靖彦、「最古の冊子本萬葉集・元暦校本—その美・歴史的意義と塙保己一檢校」。『温故叢誌』。2010, 64。

・幸田露伴、「群書類従に就て」。『温故叢誌』。2011, 65。

・遠藤慶太、「失われた古典籍を求めて：『日本後紀』と塙保己一」。『温故叢誌』。2011, 65。

・齊藤幸一、「『群書類従』版木の変遷と文化財の保存」。『温故叢誌』。2013, 67。

・「ケンブリッジ大学図書館の『群書類従』に関する新情報」。『鷺水亭より：折々のよもやま話』。

<http://genjiito.blog.eonet.jp/default/2014/04/post-dbd6.html>

・伊藤鉄也、「英国ケンブリッジ大学と米国バージニア大学の『群書類従』」。(塙保己一檢校生誕第二六八年記念大会, 2014)。

http://genjiito.blog.eonet.jp/default/files/140502_onko.pdf

・「The Japanese collections at Cambridge University Library and Gunsho ruiju」。『Special Collections, Cambridge University Library』。

<https://specialcollections.blog.lib.cam.ac.uk/?p=1597>

・寺田元一、『『編集知』の世紀：一八世紀フランスにおける「市民的公共圏」と『百科全書』』。日本評論社、2003。

・吉見俊哉、『大学とは何か』。岩波書店、2011。

・吉見俊哉、「文化資源の保存・活用のために：知識循環型社会における集合知と記録知の統合」。(京都府立総合資料館開館 50 周年記念シンポジウム, 2013)。

・江上敏哲、『本棚の中のニッポン：海外の日本図書館と日本研究』。笠間書院、2012。

・『国史大事典』

・『日本国語大辞典』

・『日本古典文学大辞典』

・『国歌大観』

・『日本中世史研究事典』

・『平安時代史事典』